

乳がん治療について

乳がんは女性のがんの中で最も多い疾患です。最近、乳がんになる女性が増加しており、10人に1人の割合に近づきつつあります。原因としては、生活習慣の欧米化や、早い初経や遅い閉経、未産や初産の高齢化などの女性ホルモンによる問題、遺伝などが挙げられます。乳がんは女性のがん罹患率(病気になる確率)としては第1位ですが、死亡率では第5位と、罹患率はかなり上昇しているとはいえ、死亡率の上昇は緩やかで、他のがんに比べると根治が期待できる疾患です。死亡率の上昇が抑えられている理由としては早期発見だけでなく、診断後の標準治療が確立され、提供されているためとされています。乳がん検診の必要性はもちろんです。検診を受けても乳がんの発症は抑えられないため、罹患してしまった際には標準治療を受けることが重要です。

標準治療とは、がんのタイプやステージなどから、根拠に基づいた現時点でできる最良の治療法のことです。乳がんにおいては、手術、放射線、ホルモン治療、抗がん剤を組み合わせで行います。

最近ではがん治療後の生活も重視しようという流れがあります。診断時や治療中は、治療後の生活のことまで考えられない方がほとんどですが、がん治療の進歩もあり、克服される方もたくさんおられ、治療後の生活のことも考える必要があります。特に乳がんは発症が40歳から60歳に多く、40歳前後の若い方にも多いため、乳がん罹患後に出産の希望のある方もいらっしゃいます。抗がん剤だけでなく、ホルモン治療という女性ホルモンに影響を及ぼす治療を行うことも多く、乳がんの全身治療は生殖能力を低下させる治療がほとんどです。そのため子どもを持つ希望がある方は診断された時から妊よう性(妊娠する力)について話し合う必要があります。

また、抗がん剤の副作用に関してもさまざまな対応が行われるようになりました。今まで乳がん術後の抗がん剤による、脱毛は避けられない副作用でしたが、それに関しても対応がされるようになりました。抗がん剤投与時に頭皮冷却装置を使用することで脱毛抑制または治療後の発毛状態の改善が期待できます。当院でも頭皮冷却装置(PAXMAN®)を2021年7月から導入しております。

まずは乳がん検診として定期的にマンモグラフィを受けることが重要ですが、症状がある場合は検診ではなく、外来の受診をお勧めいたします。

【乳腺外科診療部長 森下 亜希子】

